

シリーズ「未来の高山」 ～ふるさと高山への思い～

市制施行80周年を記念し、市内小中学生から「未来の高山」というテーマで作文を募集しました。最優秀作品を紹介しますので子どもたちの思いにふれてください。

2016.12.1

高山の宝物

北小学校5年 小林 明奈



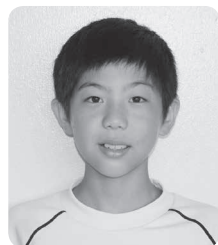
私は、2014年の秋に名古屋から高山に引っ越ししてきました。最初は不安でいっぱいだったけど、すぐに高山のことが好きになりました。散歩をしていると、川の水がきれいで色とりどりのコイが泳いでいるのを見つけました。トマトのあましさにもおどろきました。よく考えると、私の大好きな高山は大きく分けて、4つの魅力があることに気が付きました。

一つ目は「自然」です。高山では、おどろくほど自然が身近です。まず、空気が全然ちがいます。思わず深呼吸してしまいます。そして、水です。歩いていると、あちこちにきれいな水が流れているので、すぐに手をのびしてさわりたいくなります。あと、木々です。回りを見るとたくさん木がはえていて気持ちがいいです。ここでは、鳥がきいたことのないような美しい鳴き声で歌っています。このような自然あふれる高山が私は大好きです。

二つ目は「歴史」です。古い町なみでは、昔はどんな風だったのかなとよく考えます。大いちょうの木は、すごく幹が太くて、背が高いです。スカイパークから見てもすぐに、「あ、あそこだ。」と分かるくらいの大きさで、春には黄緑の葉が生え、夏にはこい緑の葉になり、秋には黄色にそまり、冬には葉が散り、雪がつもります。このように、大いちょうの木は、春夏秋冬を1200年もくり返し高山の人々に感動を与えていると知りました。高山にはたくさん歴史が残っていて、それを守ってきた高山の人々がすごいなと思いました。

三つ目は「野菜」です。たとえば、トマトは、あまくて、あまくて、高山のトマトが大好きになってしまいました。友達に出す手紙には「野菜がおいしいです。特にトマトがあまいんです。」と書いてばかりいます。どの野菜も食べだしたら止まらなくなってしまうんです。野菜って新せんだとこんなに味がちがうんだと初めて知りました。

四つ目は「人」です。ある日のことです。私の弟がお父さんにおこられて泣いていると、朝市のおばさんが「ほく、泣いているってことは反省してることだよね。」



自然の大切さを未来につたえる

三枝小学校6年 大澤 響介

僕は高山の自然が大好きです。それは、僕が自然の中でこれまで育ってきたからかもしれない。僕の家は山のふもとにあり、窓をあけると森林のにおいがします。夏にはその山にカブトムシをとりに行くことが当たり前になっています。しかし、最近山をけずったり、木をばっさいしたりしてしまう話をよく聞きます。僕は、今の高山の自然を大切にしていきたいです。そのため、自分にできることは何かと考えてみました。今の学校生活の中に、その答えがあるのではないかと考えました。

僕が通っている三枝小学校には、伝統の行事が二つあります。一つ目は、「ホタルの飼育」です。毎年、4年生がホタルの幼虫を放流したりカワニナというホタルのえさを水路でとってきたりして飼育をします。ホタルが育つにはまずきれいな水が必要です。また、ホタルのエサであるカワニナも、きれいな水でしかいきていきません。高山のきれいな水があるからこそ、豊かなホタルに成長できるのです。だから、ホタルの飼育をすることで、自然の大切さにも気づき、自然が周りにあることにも感謝できると思います。

二つ目は、「かぶら市」という行事です。高山の特産物であるかぶらを全校で作ります。うね作りに始まり、種をうえて、何度も雑草を抜いて収穫します。収穫したかぶらは、地域の人達に販売します。僕が低学年の頃は、高学年の人達に種まきの仕方や雑草の取り方、販売までの手順を教えてもらいました。自分が5年生になったときに、低学年にそれらを優しく伝えることができました。収穫するときは、かぶらをぬく人、運ぶ人、洗う人と分担して行います。僕たちは、学校でかぶらの育て方を伝統として未来に伝えていきます。そして、つくったかぶらを通して、地域の人達ともつながっています。こうした伝統やつながりは、未来に自然をのこしていくために、とても大切なことだと思います。また、5年生では「もち米づくり」にも取り組んでいます。米を育てて食べるのではなく、米を買って食べて食べる人が多いです。米ができるまでの大変さや苦勞を知らない人がたくさん